

遊技機の100%再利用事業化

法的義務があるもの以外、また使える部品があるが、貴重な金属が含まれているが砕かれ地中に埋められる電気製品。手分解で完全な再利用を目指すことで、収益を上げているのがリサイクルテック・ジャパン(名古屋市中区)だ。高取美樹社長にその戦略を聞いた。

(聞き手・福田直之)



「パチンコ台など遊技機のリサイクルが主ですね。」

「廃家電リサイクル工場を始めようとした時、岐阜で大量の遊技機が不法投棄される事件があった。行政や警察が、パチンコ発祥の東海地域でこんな事件があつていいのかと、大規模な工場を計画していた私のところに、処理できないかと問い合わせてきた。廃家電の仕事が忙しくなり、いったんは断った。だが、経営が軌道に乗ってきたので引き受けることにし、2003年にパチンコやスロット台を主に扱う、今の会社をつくった。」

「パチンコ台は99・8%、スロット台は100%だ。碎いて容量を減らして埋める会社が多いが、こちらは一つ一つの手で解体して、部品や素材を取り出して、高価のリサイクル率を出せる。」

「それでは人件費がかさむと思えますか。」

「従来通り廃棄物の処理費をもらえれば、手で解体するこ

手解体 携帯でも挑戦

リサイクルテック・ジャパン 高取 美樹社長



山本知弘撮影

たかとり・みき 福岡市中央区出身。西南学院大経卒。1971年、東洋信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)に入社。81年に妻の実家が経営する木材加工会社に移り、98年に廃家電リサイクル会社の社長就任。2003年3月より現職。61歳。

廃棄物のリサイクル
2007年度に会社などから出た産業廃棄物は、約4億1900万トンで、その52.2%がリサイクルされた。同年度、家庭などから出た一般廃棄物は約5082万トンで、リサイクル率は20.3%だった。エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・乾燥機は法律でリサイクルが義務づけられているが、携帯電話やデジタルカメラなどの小型家電は義務づけがない。

記者の視点

廃棄物処理業者が不法投棄事件を起こすのは、廃棄物を適切に処理しないことで、利益をあげることができるからだ。高取社長は逆に、透明化をとことん進めることで利益を上げている。短期的にはコスト増要因だが、結果として収益力の増強につながっている点は注目に値する。もったいなさを感じて提案した木製品のリサイクルが大手家電メーカーの信頼を勝ち取り、廃家電リサイクル会社をつくった。その会社で、手作業で部品や素材を取

廃棄物関連業界の変革期待

り出すことが、収益増の道であると発見した。そして今は、廃棄物の横流しがないことを証明するための徹底した計量や、二酸化炭素の排出権取引という新ビジネスの種にならないか模索している。

高取社長はこうしたビジネスの順繰りの展開を、「私の人生、ひょうたんから駒」とおどけてみせる。「趣味は仕事。酒も飲まないし、たばこも吸わない」という謙虚実直さで、廃棄物関連業界を、さらに透明でもうかる業界に変えていって欲しい。

とによって、取り出した部品や素材を、商品として売ることが出来る。ほとんどのリサイクルされるので、埋め立てなどの再処分費用はかからない。工場では60人で年間40万台のパチンコやスロットの台を処理しているが、きちんと採算はとれている。」

「廃棄物から取った中古部品は、そんなに需要があるので、年か1年で、部品はまず壊れない。パチンコ台は1台30万円台と高価なのに、最近では常連客が減り、経営が大変だ。中古部品を使った安い台の需要は大きい。液晶ディスプレイや基板といった外見に影響ない部分に再利用率は上がる。」

「遊技機の商品リサイクルは半減り、破砕の前に廃家電を手で分解するラインを置き、再利用できるクレーターのコンプレッサや熱交換機を取り出してみた。すると、リサイクル率は8割を超え、再処分費用が減った。人件費は一時的に増えたが、しぼり出すと従業員が作業に習熟して生産性が上がり、低下した。手分解の良さはここで思い知らされた。」

「このノウハウを今度は携帯電話などの小型家電で生かそうとしていますね。」

「こちらはまだまだ苦労している。基板が高価なリサイクルがたかさん含まれる携帯電話やパソコンは、使い終わっても家庭で保存する傾向があり、集めるのが難しい。こういうものはあらゆる小型家電を全部引き取ります。初めに集まってくるものだ。ただ、そうやっていくと、今度はレアメタルの少ない掃除機や電子レンジを大量に抱え込んでしまうことになり、採算をとる仕組みにするのが難しくなる。」

「それでも小型家電にチャレンジするのはなぜですか。」

「基礎にはすべてをリサイクルする私のポリシーがある。埋めてしまっただけではもったいない。今はまだいつになったら採算が合うようになるのか分らない状態だが、量が集まれば収益は改善すると思う。小型家電から取った部品や素材を、買っ側からしてみれば、安定供給体制がきちんと整いさえすれば、いまより高い値段でも買い取りたい人はいるはずだからだ。」

「取り扱う量を増やすことが必要だ。」

「そうだ。それには大量の小型家電を集める仕組みをつくって、部品や素材を安定的に取り出せる仕組みを作らないとならない。廃棄物から部品や素材をつくり出すリサイクルビジネスの市場をつくりたい。うちが上場して大企業になるか、同業のネットワークを形成するかは別にして、市場の規模を拡大しなければいけないと思っている。」